令和元年度大阪府立懐風館高等学校

第１回学校運営協議会

（日　時）令和元年７月２９日（月）１５：００～

（場　所）本校　校長室

（参加者）大関　雅弘（四天王寺大学教授）

　　　　　高井　基晴（羽曳野市長公室理事）

　　　　　阪本　壮一（阪本織布㈱代表取締役）

　　　　　井上　　郁（本校ＰＴＡ会長）

　事務局　高橋　雅彦（校長）

　　　　　面澤　信義（教頭）

　　　　　河﨑　徹巳（首席・総務部長）

　　　　　高橋　憲一（生徒指導部長）

　　　　　麓　　博之（進路指導部長）

〈次第〉

1. 校長挨拶

　　　　委員のご意見を学校運営に活かし、生徒によりよい学校生活を送れるようにしたいので、ご意見よろしくお願いしたい。

1. 委員自己紹介
2. 事務局自己紹介
3. 議案
	1. 令和元年度懐風館高等学校学校運営協議会について

・学校運営協議会実施要項（別紙のとおり）

・会長選出（大関　雅弘氏）

* 1. 平成３０年度学校評価について（別紙のとおり）
	2. 平成３１年度学校経営計画について（別紙のとおり）

概要説明：昨年度の内容を継続する。特に、「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」という項目は改善していきたい。そのために、生徒たちがICT機器を使えるようにすることやWORDやPowerPointなどのアプリケーションソフトが使用できるようにしなければならない。

高校では通知票で点数化されたものをもらっているが、もっと具体的な内容を記入できない　かという意見があるが、実施には難しいと思われる。具体的な内容は懇談のときに伝えられるように工夫していくことで解決したい。また、すべての評価が点数化されているが、実際にはそれだけで人の評価が決まるものではない。学力以外でもコミュニケーション能力が評価されるようになればよいと思う。

懐風館高校は、羽曳野市民をはじめ地域から信頼される学校をめざしている。地域で行われる各種イベントやボランティアに積極的に参加している。またそのことによって地元では、懐風館高校の存続を望む声が大きいのも事実である。

本校を含めた高校生の課題として、基礎学力とコミュニケーション能力とを身につけていく必要がある。これは高校卒業後の進路を決定する上で必要なことであるが、将来社会に出てからはよりコミュニケーション能力が問われることになる。

進学について言えば、今年のAO入試は厳しいことが予想される（昨年より各大学の定員の厳格化で合格者の人数が減っていることに起因する）。大阪府全体で中学生の人数が減少しているが、特に南河内地区においては顕著である。今後懐風館高校存続のために、魅力ある授業内容の展開や部活動の活性化など中学生にアピールできることを増やしていかなければならない。

* 1. 令和２年度使用教科書の選定について（別紙のとおり）
1. その他

・遅刻件数、懲戒件数の推移（別紙のとおり）

・生徒手帳の変更の報告

・メーリングリストの件

・オーストラリア・スタディツアーの報告

1. 閉会挨拶（校長）